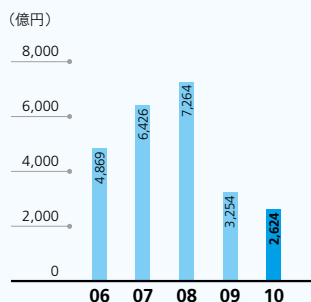


## 半導体製造装置

### 半導体製造装置売上高



### 2010年3月期概況

2008年秋の金融危機に端を発する世界的な景気低迷の影響で、当期前半は2001年のITバブル崩壊後を上回る厳しい市場環境となりました。しかし、当期半ばから半導体需要が急速に回復に向かい、半導体メーカーの工場稼働率の上昇に伴って半導体製造装置に対する設備投資も活発になってきました。

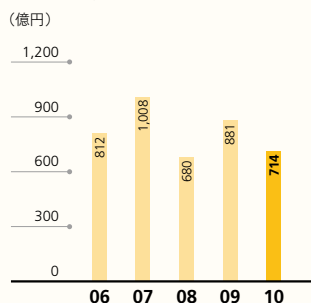
当部門の売上高は、当期前半の大きな低迷が響いて、当期半ばより大手ファブドリーメーカーおよびメモリーメーカーの投資再開に伴って回復基調となったものの、通期では前期比19.4%減少の2,624億円となりました。

地域別では、当期後半からの強い回復により、台湾が56%、韓国が19%の増加となりましたが、それ以外の地域では前期を下回る売上となりました。

製品別では、メモリーの微細化投資に伴う採用や、ロジックメーカーにおける増産対応採用が進んだエッチング装置が前期の売上水準を維持した以外は、全ての装置分野で前期よりさらに売上が減少しました。

## FPD/PV製造装置

### FPD/PV製造装置売上高



### 2010年3月期概況

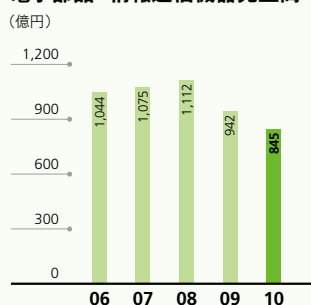
2008年後半からの世界的な景気後退の影響で液晶パネルは著しく供給過剰となり、パネルメーカーの設備投資抑制が2009年前半まで続きました。しかし、中国を中心とする液晶TVの普及拡大により需給が引き締まり、年々からはFPD製造装置に対する受注が回復に転じました。太陽電池製造装置市場は、世界経済悪化の影響で太陽光発電に対する各国の政府補助金も縮小し、投資時期が先送りにされる等の要因で急激に減速しました。

当部門の売上高は前期比19.0%減少の714億円となりました。

地域別では、第10世代のガラス基板に対応するFPD製造装置の出荷が牽引して日本は131%の増加となりましたが、韓国は77%の減少、台湾も49%の減少となりました。世代別では、ガラス基板の大型化も加速され、第8世代以上のガラス基板に対応するFPD製造装置の売上がFPD製造装置売上全体の67%を占めました。また、太陽電池製造装置の売上が当期から計上されました。

## 電子部品・情報通信機器\*

### 電子部品・情報通信機器売上高



### 2010年3月期概況

当部門の売上のほぼ9割は国内売上です。国内のエレクトロニクス市場を見ると、半導体市場は2008年秋以降の経済低迷に起因する在庫調整も終了し、2009年半ばから回復に転じましたが、IT・ネットワーク投資は、景気が回復の兆しを示す場面でも低調な状態が続きました。

当部門の売上高は、前期比10.3%減少の845億円となりました。薄型TVやデジタル家電等の民生機器向け半導体製品売上は景気対策の影響もあって期初から順調に推移し、産業機器およびコンピュータ向け半導体製品も期後半から復調となりましたが、ストレージ等に関わる製品販売は企業のIT投資への慎重なスタンスから苦戦を強いられました。

\* 本事業は東京エレクトロンデバイス株式会社がオペレーションを行っています。

## 事業展望

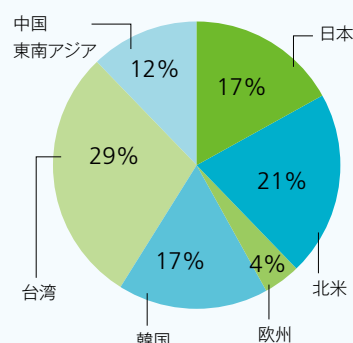
強い新規PC需要、スマートフォン需要、およびさらなるネットワークインフラの増強に支えられて、半導体市場は再び拡大基調に転じており、2010年は生産能力増強のための投資が活発になることが予測されています。

当社は、市場環境の好転を事業拡大につなげるべく、まず既存製品分野を徹底的に強化していきます。強い製品分野はさらに強くする一方、シェア拡大の余地が大きいエッチング装置・洗浄装置分野への戦略製品の早期投入、主要顧客との将来技術におけるコラボレーションの強化等で事業拡大を図っていきます。

また、半導体技術の新たなトレンドとして、ダブルパターニング技術や新材料を駆使する微細化に加えて、3次元メモリスル積層技術や3次元チップ積層技術等の新たな高集積化技術が台頭してきています。当社のコア技術をこのような新規技術分野に展開することで市場を取り込んでいきます。

ハイエンドの新規製品市場が今後も拡大する一方、装置のアップグレード・改造を含めてのロングライフ化も進行しており、ポストセールス事業の伸びも期待されます。既に世界市場では5万台以上の当社装置が稼働しており、顧客の求める価値の高いフィールドソリューション・ビジネスを増強していくことで収益を強化していきます。

地域別売上構成比



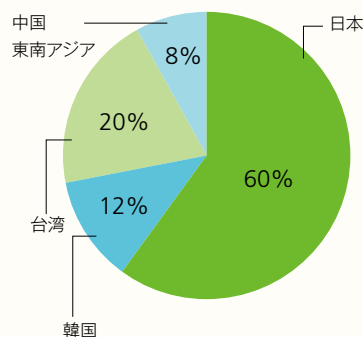
## 事業展望

「家電下乡」政策を打ち出す中国における薄型TV需要が今後も堅調に続くと思われる、2010年以降、中国において液晶製造ラインの新規投資が相次ぐことが予想されています。技術面では、薄型TVの大型化に加えて、さらなる高速化・高精細化技術が必要となってきます。こうした高度な技術要求に対して差別化された製品を市場に投入する一方、激化する競争環境の中で一層のコストダウンも図っていきます。

また、有機EL等の新世代ディスプレイの台頭に対して、対応する製品の開発を加速させ、近い将来、市場に投入していきます。

太陽電池製造装置市場、とりわけ当社が現在参入する薄膜シリコン太陽電池製造装置市場は、地球温暖化対策の本格化に伴い、中長期的には大きな成長が期待されます。当社は(1)シャープ株式会社との合併事業(2)スイス、エリコンソーラー社のアジア・オセアニア地区における販売代理店事業を行っていますが、それに加えて当社独自の製品開発も行っています。中長期で伸び行く太陽電池製造装置事業の最適事業モデルが何かを見極めながら、数年後には半導体製造装置、FPD製造装置に次ぐ当社の3番目の事業の柱になるよう育成していきます。

地域別売上構成比



## 事業展望

アジア地域における需要拡大に牽引される形で、国内における半導体製品に対する需要は引き続き改善し、これまで膠着していたIT投資も徐々に回復へ向かうことが予想されます。今後は、半導体商社としての販売体制の強化、サポート力の強化に加え、自社製品開発への一層の注力により自社ブランド品「inrevium(インレビウム)」のアジア地域での販売を拡大し、収益の向上を図っていきます。

地域別売上構成比

